

ホテルまでの道中
地面の階段で順番
決め グループの
中で・・・

川辺の向こうの店などが軒を並べる道
路周辺にはいくつかの空き地がある。

そこでは夜になれば色とりどりのライトアップがされる街の決まりになっている。

いつの間にか・・・そんな決まりになった。

川の水面のかすかな流れのように。男女
グループたちの話し合いの流れで。

河川敷近くにはホテル街がありまるで
それは銀河系の旅。

ポケットの中の宇宙と一緒にシ

ャワールームと混ざり合う。

今回は300年の歴史旅となった。

すぐそばまで光の速で行けるが、しか

しそのホテルは何階もある。

建物の高さは高いが、道中そこへ行くまでに仲睦まじい男女グループにはすることがあった。

要点は途中で地面に突如現れた渦巻の
ような物体。

それをよくよく見てみれば地下へ続く
階段であった。

ピクセルの極小と川辺の南東にあるや

けに背丈の低いマンションが暗闇に溶けてどちらか分からなくなる。

しかしポケットのそれとはまた別であった。

曖昧なけどしつかりとした現実。

男女たちはその階段の下で日常の決まった習慣をする。

そしてその習慣はいくつかに別れていた。

どちらを先にしてもいいのだが、

ポコポコと白い光のような薄い橙色の
中で小さなスリルを楽しんでいるよう

な。

結局は夜になれば同じ場所へ戻る。

それは夢を見ているような推進力である。

しかし・・・川辺の広場のライトアップと
違うかと言えばそうでもない。

周囲は広々とした草むらや山、自然の広
がる都心からはだいぶ離れた場所のラ
イトアップ。

近くには広場がある。

下着と部屋の片隅。

今夜も点滅するライトアップ。夕方から降り始めた小雨は真夜中になれば大嵐になった。

雨粒で揺れる窓とホテルの横の電信柱。

男女グループは先日の別のトモダチグループとのウォーキングで帰りにカフ

エへ立ち寄ったが、冬の川の冷たい水が
昼間の太陽光に照らされてやけに温か
く映った。

（体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました）